兵庫キリスト教障害者共励会　春期聖会説教（ 要旨）

「圧倒的な勝利者」

ロー マ人への手紙８章３１～３８節

姫路あけぼの教会牧師　廣田守男

「しかし、私たちは私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」（３７節、新改訳）。

私の牧会している教会で、毎週行っている「聖書の学び」の席上で一人の方が「この手紙を書いたパウロという人は強い方なのですね」と語られたのです。この聖会に出席された方々の中にも、弱さをもっている自分たちにとって、この「圧倒的な勝利者」という主題があまりにも唐突的ではないかと思われる方もおられることでしょう。私自身も障害を持ち、共に障害を担う方々の集いで表記の主題を掲げることに躊躇したのは事実です。

しかし、この主題は新改訳聖書のお言葉から与えられたものなのですが、「圧倒的な勝利者」を他の聖書の訳では「輝かしい勝利を収めています」（新共同訳）、「勝ち得て余りがある」（ 口語訳） とあり、何れも勝利に輝いた姿が着目されているのです。

ではパウロは本当に強かったからこのような事が言えたのでしょうか。確かにパウロほどあらゆる面で傑出した人物はいないでしょう。しかし、彼自身は「自分の強さの中に勝利の秘訣がある」と述べてはいないのです。

パウロは障害を持っている人なのです。目にか、足にか、他の身体の一部の何処にか分かりせんが、弱さをもっていたのは事実です。彼は何とかしてその弱さから解放されたいと必死に祈ったのです。その時、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」とのみ声を聞いて勝利に導かれたのです。それから、彼はその弱さを受け入れ、自分の弱さを認めるばかりか、むしろその弱さを誇りとする者に変えられたのです（コリント第Ⅱ12 章 9～10 節）。

では「圧倒的な勝利者」とされる秘訣は何処にあるのでしょうか。37 節に注目しましょう。「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって」（ 新改訳）とあります。彼にとって勝利の源は「愛してくださった方」にあると告白しているのです。即ち、「神様に愛されている」事実を認識することに勝利の源泉があるのです。そこで私たちも冒頭の聖書の箇所から「神様の愛」を具体的にどのように現されているかを確認しましょう。

一、「私たちの味方となってくださる」愛（31 節）

私たちの傍らに立ち、共にいて守り、助け、保護し、避け所となってくださるお方が神様なのです（詩篇 118 篇 6～7 節）。ヨブは試練の真っ最中に「わたしをあがなう者は生きておられる。…わたしは肉を離れて神を見るであろう。しかもわたしの味方として見るであろう」と告白しております（ヨブ記 19 章 25～27 節、口語訳）。ここに彼の

一縷の望みがあったのです。

二、**「ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された」愛**（32 節）

私愛して下さる故に最上の贈り物として御子イエス・キリスト様をこの地上に遣わし、十字架の死にあずからせて下さったのです。そして御子と共に神様は全てのものを提供して下さったのです。私たちの一切の必要が十二分に備えられているのです。柘植不知人師は「天国は破産した」とまで言われたのでした。それほどの充分な愛をもって愛されている事実を確認したいのです。

三、**私たちを「義と認め」、私たちのために「執り成してくださる」愛**（32～34 節）

神様は御子イエス・キリストの十字架の死と復活によって贖いの業を完成されたのでした。ですから、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを救い主と信じた者は罪を完全に許され、罪を犯したことのない者として神様に受け入れられるのです（義認）。また、イエス・キリストは昇天された後、神の右に上げられ、この地上に聖霊を注ぎ、そして執り成しの働きをしておられるのです。

かつてこの地上でペテロのために「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。」と語られました。自分の弱さを知らなかったペテロは見事に失敗しました。しかし、失意のどん底の彼を捉えて回復させ、彼を聖霊に満たして豊かに用いられたのはイエス・キリストの愛でした（ルカ 22 章 31～32 節、他）。また、ステパノが殉教しようとして祈っている時に、神の右に立ち上がっている姿をもって彼にご自身を顕わし、彼を支えられたのでした（使徒 7 章 55～56 節）。

聖書を通してイエス・キリストの執り成しの姿が多く浮き彫りにされています。私たちも人々から中傷されたり、非難されたり、様々な困難な状況に立たされる場合も多いですが、同じ恵みの中に生かされていることを心から感謝し、主に祈り、信頼して歩みたいものです（ヘブル 7 章 24～25 節）。

四、**決して引き離すことの出来ない愛**（35, 38～39 節）

「患難も、苦しみも、迫害も、飢えも、裸も、危険も、剣も、死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、その他のどんな被造物も」キリストと共なる歩みに身を置く者をその愛から引き離せないのです。それほどの愛に捉えられている恵みを感謝しましょう。

私たち一人一人、障害の程度も違い、置かれている立場も、事情境遇も異なります。欠点弱点も多く、失敗しては失意の中に置かれることも多々あります。そうした中でも全てのことを知り、理解し、愛し、執り成していて下さる主の愛に捉えられて歩んでいきましょう。それと共に、お互いのためにも覚えて祈りあえる交わりを更に深めさせていただきましょう。（1997 年 8 月発行「きぼう」より転載）